

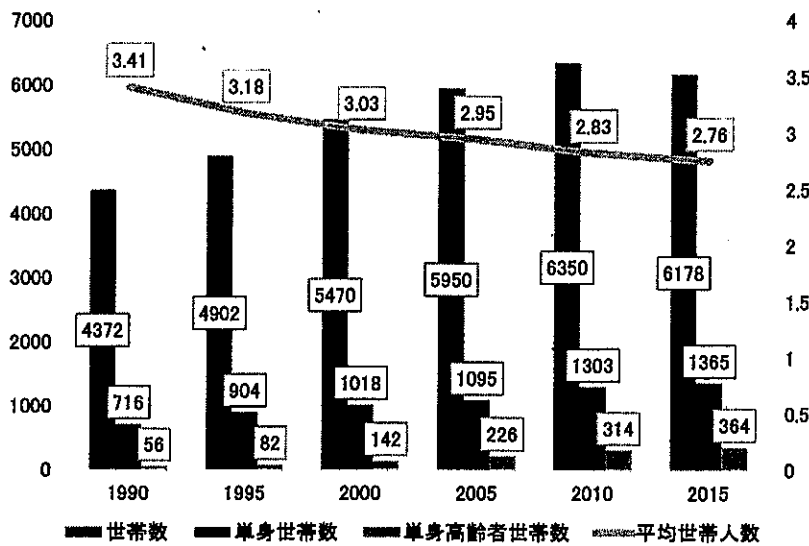
大井町人口ビジョン改訂(案)修正箇所

④ 世帯構成の推移

大井町の世帯数は2010年まで増加し、2015年は減少に転じています。反対に平均世帯人数は年々減少傾向にあり、核家族化や少子化、単身世帯の増加が進んでいます。

また、単身世帯が全世帯に占める割合は、1990年は16.37%でしたが、2015年は22.09%に増加しています。

図表4 大井町の世帯構成の推移



出典：国勢調査

(2) 将来人口の推計結果について

2060年までについて、以下の3通りの条件の下で人口推計を行った。

■ケース①：現在の人口動態が2030年まで継続し、2031年以降は人口移動がなくなるものとして純移動率を0とした場合

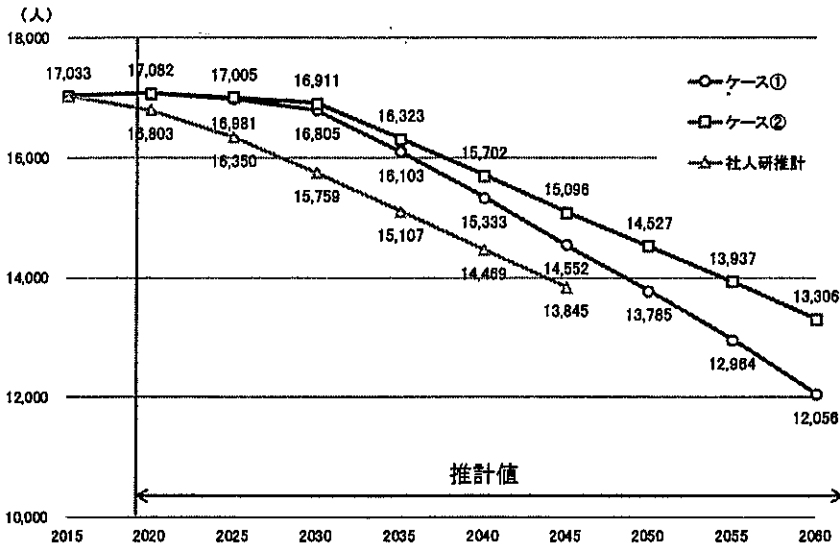
■ケース②：ケース①の条件に出生率が回復するとした場合

(2015年～2017年の3カ年の平均出生率1.22が、2060年に国及び県の長期ビジョンで示された出生率2.07を線型的に達成すると仮定した場合)

■社人研推計：国立社会保障・人口問題研究所(以下「社人研」という)が、2015年の国勢調査を基に推計した、2045年までの男女年齢(5歳)階級別の将来人口。

- 削除: 仮定条件①
- 削除: に
- 削除: 増加と
- 削除: 。

図表 21-1 将来人口推計による総人口の推移



図表 21-2 将来人口推計による年次別総人口の推移

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
ケース①	17,033	17,082	16,981	16,805	16,103	15,333	14,552	13,785	12,964	12,056
ケース②	17,033	17,082	17,005	16,911	16,323	15,702	15,096	14,527	13,937	13,306
社人研推計	17,033	16,803	16,350	15,759	15,107	14,469	13,845			

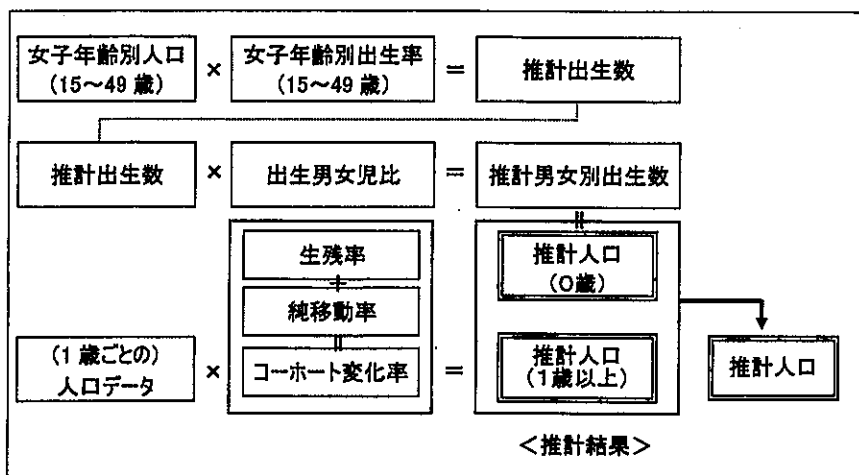
※ ケース①及び②の総人口には、年齢不詳人口34名を含む

3 大井町の将来人口推計

(1) 将来人口の推計方法について

人口推計にあたり、推計人口（各年1月1日現在）を基に以下の方針を設定し、手順に基づいて推計した。

○ コーホート変化率法による推計の流れ



<推計手順>

Step1 コーホート変化率の算出

2018年1年間のA歳の転入者数と転出者数から移動率を算出する。同様に、2019年の移動率を算出し、その平均を「A歳の純移動率」として初期値設定した。

なお、75歳以上は移動が少ないため、純移動率を設定しない。

生残率は、「平成27年神奈川県完全生命表」から算出した。

Step2 合計特殊出生率の設定

合計特殊出生率は、2015~2019年における5歳階級母親年齢別出生数から算出し、各年の平均値を初期値として設定した。

Step3 将来人口の算出

1歳以上の人口については、前年の人口に各歳のコーホート変化率を乗じて算出する。

0歳人口については、女性年齢別人口の推計値に年齢別の上記出生率を乗じることで出生数を求め、合算する。なお、その際の出生男女比は、2015年~2年の出生児の男女比に固定して設定する。

また、2015年国勢調査の結果に基づき、各年の総人口には年齢不詳人口34名を含むものとする。

(2) 将来人口の推計結果について

2060年までについて、以下の3通りの条件の下で人口推計を行った。

■ケース①：現在の人口動態が2030年まで継続し、2031年以降は人口移動がなくなるものとして純移動率を0とした場合

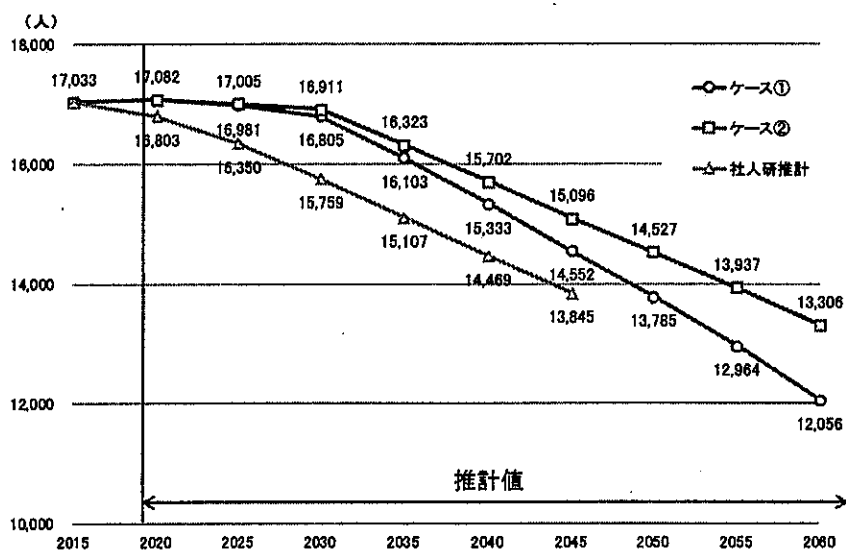
■ケース②：ケース①の条件に出生率が回復するとした場合

(2015年～2017年の3カ年の平均出生率1.22が、2060年に国及び県の長期ビジョンで示された出生率2.07を線型的に達成すると仮定した場合)

■社人研推計：国立社会保障・人口問題研究所(以下「社人研」という)が、2015年の国勢調査を基に推計した、2045年までの男女年齢(5歳)階級別の将来人口。

- 削除：仮定条件①
- 削除：に
- 削除：増加と
- 削除：。

図表 21-1 将来人口推計による総人口の推移

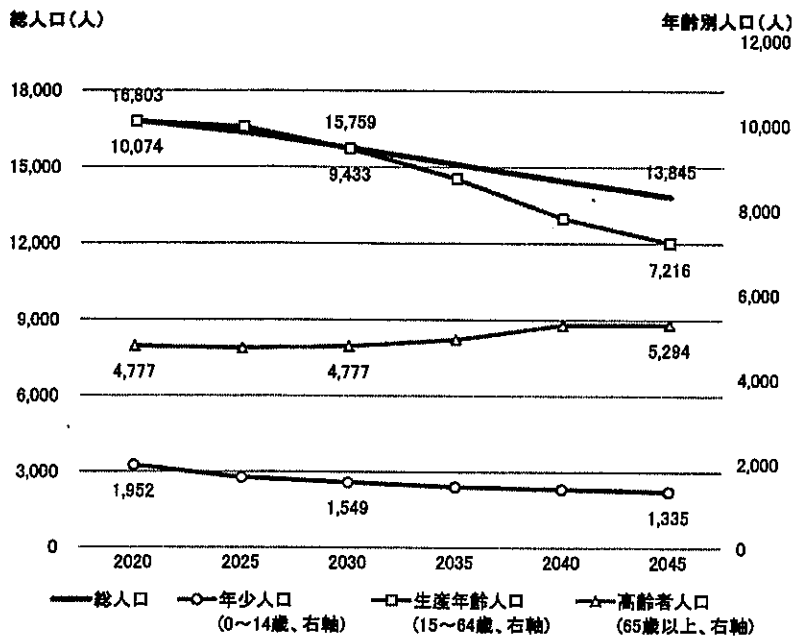


図表 21-2 将来人口推計による年次別総人口の推移

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
ケース①	17,033	17,082	16,981	16,805	16,103	15,333	14,552	13,785	12,964	12,056
ケース②	17,033	17,082	17,005	16,911	16,323	15,702	15,096	14,527	13,937	13,306
社人研推計	17,033	16,803	16,350	15,759	15,107	14,469	13,845			

※ ケース①及び②の総人口には、年齢不詳人口34名を含む

図表 21-5 社人研推計における年齢3区分別人口の推移



図表 21-6 2045年におけるケース別人口及び年齢割合比較

〔上段：人、下段（）内：％〕

	年少人口 0~14歳	生産年齢人口 15~64歳	高齢者人口 65歳以上	総人口
ケース①	1,404 (9.7)	7,626 (52.5)	5,488 (37.8)	14,552
ケース②	1,842 (12.2)	7,732 (51.3)	5,488 (36.4)	15,096
社人研推計	1,335 (9.7)	7,216 (52.1)	5,294 (38.2)	13,845

※ ケース①及び②の総人口には年齢不詳人口 34名を含む

図表 21-7 2060年におけるケース別人口及び年齢割合比較

〔上段：人、下段（）内：％〕

	年少人口 0~14歳	生産年齢人口 15~64歳	高齢者人口 65歳以上	総人口
ケース①	1,053 (8.8)	6,470 (53.8)	4,499 (37.4)	12,056
ケース②	1,759 (13.3)	7,014 (52.8)	4,499 (33.9)	13,306

※ ケース①及び②の総人口には年齢不詳人口 34名を含む

